※グループ討議の概要について
この資料は、グループ討議の振り返りのために、ファシリテーター及び事務局が議論の概要を整理したものです。暫定的な資料であり個別の意見を示したものではないことをご了承ください。

沼津高架ＰＩプロジェクト　勉強会＜合同＞第７回
グループ討議の概要【A グループ】

【代替案の比較評価と選定に向けた考え方について】

まず、代替案の選定に向けた考え方を改めて確認しました。A グループでは、前回の討議においても、「原Ｃ　小規模整備案（原Ｃ案）」は地域づくりの目標を十分に達成しないとの意見があり、原Ｃ案を含まない４つの代替案に絞り検討することは概ねみなさんの理解を得られました。またその４案の組合せのうち、「原Ｂ　種地を活用した全体整備案（原Ｂ案）」については原地区西側ゾーンの整備範囲には様々な提案や意見があり、具体的な検討を踏まえていないことから、現段階では、各代替案は大きな幅をもっている点が確認されました。

ここで、ニューズレター第８号に記載のあった詳細に比較評価する７つの代替案について、その説明が分かりにくいとの指摘があり、今後発行されるニューズレター等では、各代替案の内容をより分かりやすく市民に伝えていくよう要望がありました。

また、技術検討アドバイザーの助言内容についても意見が出されました。災害時の備蓄などこれまでのグループ討議では気づかなかった事項について言及されている点が評価された一方、技術検討アドバイザーが地域の実情や市民の実感を知った上で助言・監査を行っているのか疑問が出されました。

加えて、今後の案の選定に向けて、どのような経緯で意思決定がされたのかを県はきちんと公表すべきとの要望が出されています。

【勉強会のとりまとめについて】

勉強会とりまとめは、今後の地域づくりを進める上で配慮すべき事項について、共通して提案できる内容を勉強会から県に提示するもの、との位置付けについて確認しました。この点に関連し、宛先をあいまいにせず「県知事」と明記するなどの提案がありました。

内容や表現についても「①何も決まらない状況は最も避けるべき」については、「先送りしない」「早く決定すべき」など、より強調した表現とする提案が多く出されました。また、「④県と市は今後とも市民参加によるまちづくりを進めるべき」については、継続して市民参加の場が必要であることは共通認識として確認されましたが、参加の場のつくり方についてはPI という手法にとらわれず幅広く考える必要があることや、市が十分に市民参加に取り組むかどうか懸念が示されました。また市民参加だけでなく、市議会での議論の重要性も指摘されました。

ここで、とりまとめの取り扱いについても議論となりました。勉強会に市の参加がなかったことや、勉強会で議論してきたコンパクトな市街地形成といった地域づくりの目標とは異なる方向へ進もうとしている市の姿勢から、勉強会とりまとめを発行しても状況が変わることは期待できないとの懸念が出されましたが、長期間勉強会で議論してきた成果を形にしたいとして、勉強会とりまとめを発行することで了承されました。

※グループ討議の概要について
この資料は、グループ討議の振り返りのために、ファシリテーター及び事務局が議論の概要を整理したものです。暫定的な資料であり個別の意見を示したものではないことをご了承ください。

沼津高架ＰＩプロジェクト　勉強会＜合同＞第７回
グループ討議の概要【B グループ】

【代替案の比較評価と選定に向けた考え方ついて】

「原Ｂ　種地を活用した全体整備案（原Ｂ案）」を含む代替案に対して、西側ゾーン全体を整備することになると新たな地権者との協議が生じることから、関係者のいない勉強会の場でこのような方針を出して良いのか、反発が出るのではないかという懸念が出されました。これに対し、原Ｂ案はあくまで「地域の活性化を図るために貨物駅予定地だけではなく、より広い範囲で整備を進めることを目指す」という方向性を示しているだけであり、詳細については今後更に検討を進める必要があることが確認されました。その他には疑問や異論はなく、グループ内では事務局の提案した選定に向けた考え方が了承されました。

【勉強会とりまとめについて】

勉強会とりまとめを出すことの必要性と重要性を確認しました。また、高架の是非や各代替案の評価の判断材料としないことも、確認しました。事前送付案よりも文章を短くする修正を加えたことで、中立的な表現になり参加者内で合意しやすく、ポイントが解りやすく読みやすくなった点が評価されました。

文書のタイトルについては、まちづくり全般ではなく沼津高架 PI プロジェクトに関する内容である点を強調する、「とりまとめ」ではなく「コンセプト」もしくは「共通認識」という言葉を使う、などの提案がありました。

前文について、勉強会では富士見町や片浜等の地区についても議論してきたことを踏まえ、議論のテーマを「鉄道高架事業と貨物駅移転」に限定しない表現とするべきとの指摘がありました。また、「対峙する様々な参加者」という表現について、意見は異なるものの対峙しないように互恵的な解決を目指して議論を進めてきたという意見が出され、「多様な意見を持つ参加者」などの表現への修正が提案されています。

また、全体を通して主語が不明確との指摘があり、県に提出するということを前提に言い回しを練る必要があるとされました。特に、「③市財政へ配慮し、効率的な事業とすべき」に関して、この文書を受け取ったとしても県が市財政には関与できないという疑問や、事業の効率性を高めることは市だけでなく県にとっても重要であるという意見がありました。

さらに、「①何も決まらない状態は最も避けるべき」を伝えることの重要性を指摘する意見が多く、それと同時にこのまま意思決定が延びる懸念も大きいとして、「速やかに」「早急に」という曖昧な表現ではなく、「年内」「年度内」といった明確な期限を設けた内容とする提案がありました。年度末になっても意思決定がなされなければ沼津が本当にダメになってしまうという切実な声も出されました。また、事業が先延ばしになっていることで富士見町をはじめ区画整理地区内の住民や鉄道事業者など実害を受けて切迫している市民や企業が多くいる点を今後も重視していくべきという提案がありました。

※グループ討議の概要について
この資料は、グループ討議の振り返りのために、ファシリテーター及び事務局が議論の概要を整理したものです。暫定的な資料であり個別の意見を示したものではないことをご了承ください。

沼津高架ＰＩプロジェクト　勉強会＜合同＞第７回
グループ討議の概要【C グループ】

【代替案の比較評価と選定について】

４つの代替案に絞った提案がされたことについて、選択肢としては概ね妥当という認識が共通して示されました。

ただし、代替案の設定方法などこれまでの検討における反省点など様々な考えが述べられました。

より重点を置いて取り上げたかった論点として、以下のような意見が出されました。

駅周辺の地域づくり全体を検討テーマとするのではなく、交通問題の解決の観点から高架化が必要かどうかに焦点を絞った検討への要望があった一方、富士見町の土地区画整理や今後の地域整備の進め方をより具体的に検討すべきとする意見もありました。

また、床面積を増加させることが必ずしも活性化につながらないとの考えを背景にして、沼津のまちの現状における衰退の原因を整理した上で、活性化の起爆剤となる公共施設や住宅供給のあり方などについては、今後より具体的な検討が必要との意見がありました。

その他、PI プロジェクトでは、貨物駅移転の問題が背景にあることから原地区の地域づくりが検討テーマとして掲げられたが、より広域的な観点から片浜地区など他の地域についても検討が必要との意見もありました。

【勉強会とりまとめについて】

「勉強会とりまとめ」についても概ね了解されました。

修正が提案されたのは以下の２点です。まず、「②現状のまま放置するのではなく、地域づくりを早急に進めるべき」という表現について、現状では、コンベションセンター建設など新しく取り組まれている事業もあり、高架化の問題が必ずしも地域整備を全て停滞させているわけではないことから、表現方法に留意したいとの意見がありました。また、「④県と沼津市は今後とも市民参加によるまちづくりを進めるべき」に関連して、沼津高架化の問題は計画当初に市民参加がなかったことが発端であること、そのため、この PI が計画検討のはじめの地点に戻りつつ、25 年後の視点で見直すという作業だったことなどの認識が示され、「勉強会とりまとめ」には、当初の進め方の反省を含めて記載することが提案されました。

※グループ討議の概要について
この資料は、グループ討議の振り返りのために、ファシリテーター及び事務局が議論の概要を整理したものです。暫定的な資料であり個別の意見を示したものではないことをご了承ください。

沼津高架ＰＩプロジェクト　勉強会＜合同＞第７回
グループ討議の概要【D グループ】

【代替案の比較評価と選定に向けた考え方ついて】

比較評価については、鉄道高架事業がもたらすまちの活性化全体にかかる費用対効果が算出されない状況で、適正な評価ができるのかといった疑問が出されました。財政面では、主に以下の 2 点の意見が出されました。一つは、沼津市財政は健全であるという見方が示されているが、今まで積極的な施策が打たれていないだけであるとして、十分な社会サービスが提供されていない中であえて鉄道高架事業に取り組むことが疑問との意見です。もう一つは、今後、沼津市の財政について情報をより詳細に明らかにし、市民がそれを理解したうえで議論すべきとの意見が出されました。

4 つの代替案に絞り込んだことについて、概ね了解が得られました。

ただ、代替案 13 については、すべての案の中で費用が最小でありミニマムな案であることから、選択肢として残しておくべきとの意見があった一方、検討の過程で生み出された案として参考に残しておくには良いが、積極的に選択すべき案ではないという意見が出されました。

また、代替案の選定に向けてそれぞれの考えが改めて示されました。沼津駅周辺では、地域整備をフルコースのようなセットで考えるのではなく、それぞれの要素を単品として考え、臨機応変に地域づくりを検討すべきとする考えや、原地区では富士山といった世界的な資源があることを前提に、地元住民だけでなく、広いエリアからの観光客などを視野に入れた地域づくりの必要性が示されました。また、富士見町はこれまで約 20 年間に渡り、土地区画整理事業に伴い、虫喰い状態となり、地域コミュニティの形成や生活利便性の点で苦しめられている状況であり、早急に地域整備を進める必要があることが改めて強調されました。

【勉強会とりまとめについて】

大きな構成については概ね了解が得られました。ただ、最大公約数的な表現では具体性に欠けるので参加者の発言・言葉を具体的に反映すべきとの意見や、提言する内容が確実に実行に移されるよう、「県」や「市」など主語を明記するべきといった意見が出されました。

「①何も決まらない状態は最も避けるべき」は、特に重要な点であり、意思決定の時期が遅れる懸念があるとして、早急な判断を求めていることを強く勉強会の共通認識として伝えたいとの考えが強調されました。また、「速やかな」意思決定というだけなく、「丁寧な」意思決定も必要とする意見が出されました。

「③市財政へ配慮し、効率的な事業とすべき」については、沼津市の財政をより詳細に情報公開し、市民が理解したうえで議論すべきとの意見が出されました。

「④県と沼津市は今後とも市民参加によるまちづくりを進めるべき」については、特に「今後とも市民参加」を進めることが重要であり強調すべきとの意見が複数あがり、従来のような一部の利害関係者が決めてしまうような進め方ではなく、たゆみなく市民参加のまちづくりが進められることへの期待が示されました。